

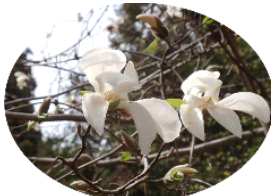


はやく来いよと棚田が手まねきする。いまから行くからちょっと待ってくれ。棚田の保全・景観を取り戻そう…、草刈り、根起こし、畝作り、種まき…にと、気ははやる。

高山の山裾に点・個として白い花(タムシバ)がこぼれ咲く。今年もガンバレよ〜と、山の神・田の神からのエールであろう。

「農のふるさと協力隊」が発足し、はや一年になる。小さな一歩だが仲間と共に手にマメを作り、汗を流し成果をあげてきたと思う。残念ながら今一歩その目的を十分に果たせなかった面もある。反省を今春への大きなステップにしたいと仲間の気力・スピリットは燃えている。

遊休地から「高山ごぼう」を栽培



タムシバの花が咲く頃にゴボウの種まきが始まる。



ゴボウの種、900粒を蒔く。さて…収穫量は!

高山は標高450mに位置する。一日の気温差(昼・夜)が大きくゴボウ作りに適している。

遊休地を使って高山ゴボウを栽培し、なにわ伝統野菜を守ろうと鍬・ツルハシ・スコップを持った。一朝一夕には作業は進まない。ススキ、竹の地下茎、石の除去…悪戦苦闘の繰り返し、「労なくして何事も成就しない」…楽しい苦労は進んで体験すべし。三回の活動にして9本の畝(ベッド)が完成した。



シカ対策に真剣に向かっています



皆さん〜…一度、楽しい農業体験をしませんか…

活動日：4月6日、10日、20日、24日

なかなかメンバー全員が顔を合わすことは難しい!

「やられた…」ゴボウの畝にシカが侵入!。棚田は多様生物との共存・共栄区なので文句は言えないが、…身勝手ながら腹が立つ。イノシシ・シカとの知恵比べ…仮処置としてネットで回避するが、気休め程度かも…。木の芽が萌えだし草・木も背伸びしだした。夏野菜の植え付け・棚田の草刈り保全にと多忙時期に入る。「棚田から学ぶ」人生第二章は無理なく頑張りましょう。

地元の人に秘伝を教わりました



高山ゴボウの育て方

- ① 土を深く掘り、藁、ススキ、真菜などを、すき込み畝を作る。
- ② 山にタムシバが咲く頃に種を蒔く(高山地区の先人からの教え)
- ③ 条まき(条藩)で、マッチの軸(約5㍍)間隔、上にもみ殻や藁をおく。
- ④ 約2週間で発芽
- ⑤ 葉が10~20cm位になると、畝に藁を敷く(日焼けと雑草防止を兼ねる)
- ⑥ 収穫は10月下旬より〜

【豆知識】 肥料は土壌中で温度、水、微生物の活動などで分解され、無機養分に変わります。その無機養分を根から吸収し野菜は成長するのです。油カスや鶏糞そのものを吸収するものではありません。